



取締役会長
伊村 晟

取締役社長
豊田 鐵郎

ごあいさつ

平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

2011年度の経済情勢を概観しますと、世界経済は、中国をはじめとしたアジア各国での経済成長に加え、米国での景気回復により、全体では回復が続いてまいりました。国内におきましては、東日本大震災の影響や、円高による厳しい状況のなかで、個人消費、設備投資に持ち直しの動きが見られ、緩やかな足取りながら、景気は改善してまいりました。

こうしたなか、当社グループは、品質第一に徹してお客様の信頼にお応えいたしますとともに、各市場の回復の動きに的確に対応して、販売の拡大に努めました。また、震災やタイの洪水などによる生産活動への影響を最小限にとどめるよう柔軟な稼働対応を行ってまいりました。その結果、2011年度の業績につきましては、増収増益を達成することができました。

今後の世界経済の見通しにつきましては、中国などのアジア諸国の成長に支えられ、全体では、景気の回復傾向が続くと見込まれますが、欧州の債務危機や米国の雇用情勢の悪化などによる景気の下振れリスクや、原油などの原材料価格の高騰、為替相場の動向などの不透明な要因があり、企業を取り巻く環境は引き続き厳しいと予想されます。

このような環境のなかで、当社グループといたしましては、より強固な経営基盤を築き、企業価値の一層の向上に向け、グループの総力をあげて経営課題に取り組んでまいります。

当面の課題といたしましては、いかなる環境の変化にも速やかに対応できる、ゆるぎない企業体質の実現のため、事業構造、コスト構造改革を進めていきます。また、各国・各地域においては、最適なコスト、納期を実現する生産・供給体制を構築するとともに、お客様に幅広いサービスを提供するため、バリューチェーンの拡大に取り組んでまいります。

一方、中長期的には、品質第一を基本に、環境・安全への対応と、国際競争力の向上を重要な課題として捉え、お客様目線に立った商品開発、先進技術開発を推進いたします。

2011年10月には、当社グループが次の10年にめざす姿を定めた2020年ビジョンと、中期経営計画を策定いたしました。2020年ビジョンでは、お客様のニーズを先取りする商品・サービスを継続的に提供することにより、世界の産業・社会基盤を支え、豊かな生活と温かい社会づくりに貢献することをめざしています。そのために、「3E」、つまり、Environment, Ecology & Energyをキーワードに、環境にやさしい、省エネ型の商品を開発し、お客様が求める機能・サービスを加え、世界中にお届けすることにより、産業車両、物流、繊維機械などの「ソリューション」事業、カーエアコン用コンプレッサー、エレクトロニクスなどの「キーコンポーネント」事業、車両、エンジンの「モビリティ」事業の3つのビジネスユニットをそれぞれ大きく成長させていきます。また、中期経営計画では、2015年度までの具体的な方策をビジネスユニットごとに定め、2020年ビジョン達成に向け、当社グループが一丸となった取り組みを進めてまいります。

皆様におかれましては、今後とも引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年7月

取締役会長

伊村 晟

取締役社長

豊田 鐵郎